

(第3種郵便物認可)

楽斤 4月

フン放置 チョークで警告

路上に放置される犬のフンを減らそうと、小平市は7日、「イエローチョーク作戦」を始める。放置された路面に印を付け、発見日時も記すシンプルな取り組みだが、飼い主のモラルに訴え、放置を繰り返さないよう警告する狙いだ。約2か月間の実証実験で、成果が確かめられたという。希望する市民はチョークを配り、作戦に加わってもらおうという。

路面に印、モラルに訴え

小平市 7日から

■実験に手応え
「最近はずいぶん減った」。4月27日夕、同市の長の佐々木邦夫さん(56)「NPO法人・ふるーべりー」は、愛犬の散歩を兼ねた見回りをしながら、表情を緩



放置されたフンの周りをチョークで囲み、日付を書き込む佐々木さん(中央)ら(4月27日、小平市小川西町で)

☒ イエローチョーク作戦 飼い主に犬のフンの後始末を促す取り組み。京都府宇治市で始まったとされる。放置されたフンを見つけた場合、①周囲を黄色のチョークで丸く囲んだり、矢印で指し示したりする②発見した日時を記す——などを実施。その場で片付けることはせず、様子を見る。チョーク1本ですべてできる手軽さもあり、全国の自治体に広がっている。

めた。佐々木さんは毎日、朝夕に自宅付近の約1キロを30分ほど歩いており、実証実験に参加した。巡回を始めた3月には、人目に付きにくいこともあってか、グラウンドや線路に沿った道などで1回の散歩で10個ほどのフンを見つけた。しかし、この日は5個にとどまり、「『見られている』と飼い主が思うことで、抑止力になっているのだろう」と話す。

■対策に苦慮

協会では過去に、フンを回収する「クリーン活動」を月1回のペースで実施した。7、8年間続けたが、「拾っただけでは『落とし物』は減らなかった」。

市も対策に行き詰まっていた。市環境政策課によると、「家の前に放置されている」といった苦情が長年寄せられてきた。20年以上前から、飼い主に注意を促す看板を無料で配布して

り、その数は300枚を超えるが、苦情は減らなかったという。そこで、市が目をつけたのがチョーク作戦だった。

同課の職員が、京都府宇治市で作戦を実施し、効果を上げていることを知った。

宇治市は駐車違反の取り締まりをヒントに2016年1月から実施。市環境企画課の柴田浩久主査(53)によると、市内の約2・7キロ

の目抜き通りでは当初、約30か所でフンが放置されていたが、1年後にはほぼゼロ口になったという。

■担い手は市民

小平市では4月末までの約2か月間、実証実験を行った。佐々木さんら同協会のメンバー約15人にチョークを配布。散歩コースを中心に見回り、チョークで印をつけてもらった。メンバーからは「フンは確実に減っている」との声が相次いだという。市は「ゼロにはなってい

ないが、一定の効果はあった。今後も効果が見込めると判断。飼い主に放置を繰り返させないために、より多くの人に見回りの担い手になってもらうことにした。担当者は「飼い主には責任ある対応をしてもらいたい。住民にも協力してもらいたい。きれいなまちにしていきたい」と話している。

作戦に参加したい人は7日から、市環境政策課の窓口でチョークや、取り組み方法をまとめたチラシを受け取る事ができる。

フリーダイヤル
0120-7815811
立川駅前
徒歩3分
OPENホーム

ルからリサイクルされた紙